

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472900113
法人名	医療法人 豊和会
事業所名	グループホーム やまもも
所在地 (電話番号)	志摩市阿児町国府1061-153 (電話) 0599-46-1127
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 10 日(月)

【情報提供票より】 (H20年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	3,730 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2 月 14 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86.8 歳	最低 75 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人全体としては病院や老健、デイサービスセンター、グループホーム等多数の介護施設を運営しており、本グループホームも設立8年経った実績・経験の豊富な事業所である。地域の集落からは少し離れた小高いところにあり、緑いっぱい静かな丘陵地に所在する。開設以来職員の離職はなく、利用者職員はなじみの関係にあり、和気あいあいと仲の良い大家族を思わせる事業所である。運営推進会議も順調に継続されており、地域との連携・交流もできつつあり、管理者はじめ職員のがんばりで、地域にしっかり根を下ろしてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題はなく、期待事項であった運営推進会議は定期開催され、地域との交流も老友会への参加が実現しており、改善への努力がなされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ職員は自己評価の意義、目的をよく理解し、全員で評価に取り組んでおり、具体的な改善にも取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を継続している。報告内容やテーマ選定に苦勞しているが、事業所としての活動や実態を基にした身近なテーマを提起する等、今後も開催を継続してほしい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご意見箱を置いたり、家族の面会時に意見を聞き取る努力をしているし、運営推進会議の席上でも積極的に意見を交換し合っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	自治会行事や老友会行事に参加し、手芸やカラオケ等地域の人々と交流している。誰が何をするというのではなく、その時々利用者の気持やニーズに合わせて共に過ごしており、理念どおりのゆったりした生活である。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着となり意識はしているが、パッチワークで書かれた設立当初からの理念「ゆったりとした雰囲気の中で・・・」が、玄関入り口に掲げている。	○	「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」サービスとして、「地域との関係性」が重視されるようになってきているので、現在の理念が地域密着型サービスとしての具体的なイメージが抱けるものとなっているか、について検討をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念の「ゆったりと」を共有しており、仕事で気があせっているときでも、ケア会議等によって理念を再確認するように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地域の行事や老友会に参加し、手芸やカラオケ等地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を全職員が理解しており、自己評価も管理者、職員みんなで行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のテーマには苦勞しているが、2ヶ月に1回の会議開催を継続している。課題や検討事項についての意見も多くサービスの質の向上に活かしている。運営推進会議に地域の人も加わってもらい、また行政主導の「阿児包括ケア会議」にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や「阿児包括支援センター」主催の研修会等に積極的に参加し、相談しあっており、市担当者との連携も出来つつある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に状況報告をしているし、毎月の金銭関係の報告に合わせて、日々の暮らしの様子を連絡している。また法人としての「豊和苑たより」を家族に送付している。	○	グループホーム独自の「たより」を発行する計画がある。ぜひ利用者の暮らしぶりやエピソード等がいっぱいつまった楽しい「たより」を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的には家族が面会に来訪された時の会話から意見の吸い上げをしている。運営推進会議の席でも家族からの意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所設立以来、前管理者の離職があったのみで職員の離職はなく、馴染みの職員による支援がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や志摩市事業者連絡協議会に入っており、研修情報は多数入手している。研修を受ける機会は職員平等に確保されており、何を勉強したいか職員側から申し出る仕組みになっている。研修案内があれば張り出すので、皆が見ており、参加希望があれば勤務シフトをかえ参加してもらう。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や介護サービス事業連絡会議に職員が交代で参加しており、情報交換や交流から、協力関係が得られる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	約1ヶ月間体験入所のような期間を設け、1～2週間ごとに家族と話をする機会を持ち、家族や本人の希望とあっているかどうかをチェックしながら、入所するような仕組みになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の入居期間も3～4年になり、気心も分かりお互いに相手の思いが分かるようになっている。支援する、されるでなく、いつも一緒に過ごすことで、職員の方が励ましてもらったり、教えてもらったり、いたわってもらったりする関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わり合いの中で、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、毎月の会議でその共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の会議で職員全員で意見を出し合って作成した介護計画書を家族に説明し、家族の意見も取り入れて修正作成する。計画は基本的に3ヶ月ごとに見直ししている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化のあるなしにかかわらず、毎月職員全員でモニタリング会議を行い、介護計画のチェック、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人、家族の希望を聞きだし外出等に取り組んでいる。昨年はコンサートに行ったり、飛行機の旅行に行ったりした。地域の種々な相談ごとには併設老健の相談窓口で対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の入居前からのかかりつけ医には継続して受診してもらうことを基本としており、現在4人がかかりつけ医、5人が併設の病院を利用している。併設の病院では月1回、全員の健診や往診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として老健や病院を併設しており、その看護師や医師といつでも連絡は取れる。当事業所での生活が困難と判断されたときは、しかるべき施設や病院を照会するものとしている。契約時には、看取り・ターミナルケアを行わないことを本人・家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーを傷つけてしまわないよう一人ひとりに応じた対応をしている。特にトイレ誘導には気配りをしている。外部者から個人名が見えないよう、書類の置き方にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、時間に合わせるのではなく、何をするにも利用者各自のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の老健メニューを基本としているが、その日その日に職員と利用者が相談しアレンジしている。買物、調理、配膳、片付け等、できる人が手伝っており、みんなで食事を楽しんでいる。食事時はテレビは注意が散漫になるので消しており、代わりにクラシック音楽がかかっており、優雅な気分で食事を楽しんでいるのが分かる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に1回は風呂に入るように工夫しており、「今日入る人」が分かるように名札が掛けてある。入浴を嫌がる方への誘いかけには苦勞をしているが、基本的に入浴の時間は個々人のタイミングに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、畑仕事等できる人には自然と役割分担ができています。楽しみごとの外出も多く、散歩、季節の花見など気分転換も兼ねての支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、本人の希望も取り入れ近所の散歩や海岸までのドライブに出掛けており、利用者・職員双方にとっての気分転換、季節を感じる機会づくり等の工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵を掛けることの弊害を理解しており、扉を開ければチャイムが鳴るようにして、玄関と裏の2ヶ所共鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回併設の老健と合同で避難訓練を行っている。年2回のうち1回は、夜間想定訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日記録し体重管理もしている。併設老健の管理栄養士が作るメニューを基に献立を作っており、栄養バランスやアレルギーのアドバイスももらっている。水分摂取量にも注意をしており、いつでも飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である居間、食堂と調理場が一体になっており、調理をする職員や利用者と話しながら時間をすごすことができる。一人掛けのイスやたたみコーナーもあり、思い思いの場所で過ごせるよう居心地のよい空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	扉は引き戸になっていて安全に出入りしやすく、洗面所は各部屋についていて使いやすい。ベットと戸棚以外は自宅で使っていた馴染みのものを持ち込んでおり、本人や家族の好みの配置にして、各自が自分の部屋づくりをしている。		